

「ロングライフな住まい」とは、
どのようなのでしょうか。

建物が頑丈で長持ちすること？
心地よく健やかに住み続けられること？
きっとそれだけではなく、

家族の変化にそっと寄り添い、
時を追うごとに愛着が増えていく、
そんな住まいではないかと、
私たちは考えます。

どんなときも「今が一番良い」と思える家。
手入れをしながら、家族とともに育つ家。

今回は、築14年、そして築43年と、
長い年月のなかで家族の歴史を
刻んでこられた2組のお客様に、
ロングライフな住まいのヒントを
うかがいました。

ロングライフな 住まいのポイント

1 | 長期耐久を見据えた 構造と素材選定

構造体の耐久性向上や、劣化しにくい素材を採用することで、
住宅の基本性能を長く維持します。

2 | 維持管理・更新しやすい 住まいづくり

点検・修繕・設備交換を想定した設計により、
メンテナンス負担を抑え、安心して住み続けられる住宅に。

3 | 暮らしの変化に 対応できる可変性

家族構成やライフステージの変化に合わせて、
間取りや使い方を変えられる計画が住宅寿命を延ばします。

特集
ロングライフな
住まい Long Life

Family & House History

変わらないこと

新築時にヤマサハウスの提案で取り入れた、オレンジ色の屋根と白色の外壁。お客様の気に入りで、リフォーム時でも変えずに残しました。



変わったこと

1階の客間だった和室がご夫婦の寝室に。奥様の趣味の洋裁スペースも設けられ、今後、ミシンで小物作りなどを楽しみたいそう。



History

- 1984年1月 **新築完成**
- 同年12月 **第一子誕生**
- 1987年 **第二子誕生**
- 1991年 **第一子小学校入学**
- 1994年 **築10年目**
近所は同世代の家族が多く、花火やキャンプなどを楽しんだ記憶。現在も交流が続く。
- 同年 **第二子小学校入学**
- 2004年 **築20年目**
 第二子が進学し県外へ
 第一子が就職を機に独立し、ご夫婦ふたり暮らしに
- 2014年 **築30年目**
- 2023年 **リフォーム工事**

住まいに刻まれた 家族の幸せな記憶

昭和57年の結婚を機に家づくりを考え始めたお客様。身内の紹介で出会った担当者はヤマサハウスの現専務でした。「対応が誠実で、引越しのときは1階に家具を運び込んでもらったのも良い思い出です」と振り返ります。

「住まいのコンセプトは「明るい家」。周囲に黒瓦が多いなか、選んだのは明るいオレンジ色の瓦です。43年もの間、大型台風に見舞われても瓦1枚飛ばなかったそう。当時はめずらしかった広々としたLDKは、子どもたちの成長の節目ごとに親戚が集まるお祝いの舞台に。「隣の和室まで開けて、みんなで食事を楽しみました」と話す笑顔が、ご家族の豊かな時間を物語っています。かつ

て和室だった場所は今、ご夫婦の寝室へと姿を変え、「1階だけで生活したいというおふたりの日々の暮らしやすさを支えています。」

今の暮らしにちょうどいい、リフォームで叶える快適さ

ライフステージに合わせてリフォームを行ったのが3年前。和室をベッドが置けるフーリングの寝室にし、押入れをウォークインクローゼットに。また、お風呂や洗面台を一新し、断熱改修も施しました。「断熱効果が高く、冬はとても暖かく、遮音性もあって雨音

もほとんど聞こえないほど。リビングの窓は4枚だったものを大きな2枚のガラスにして、より明るい印象になりました」と話します。住み慣れた住まいはリフォームによって、現在の暮らしによりフィットし、新たな心地よさを与えています。

ご主人に続いて奥様も退職を迎えられ、いよいよご夫婦ふたりの時間が本格的に始まりました。今後は家庭菜園や旅行を楽しみながら、仲良く穏やかに生活していきたいと語るご主人。その想いに寄り添うように、住まいは姿を変えながら、これからもご夫婦の人生をやさしく包み込みます。



Long Life
#01

家族の歩みとともに
住まいで紡いだ、
たくさんのお思い出と、
快適な暮らし。

Family & House Data

ご夫婦 / 築43年



ずっとお気に入り

新築当初から変わらずなのが、竹を編み込んだ玄関の網代(あじろ)天井。年月を重ねると色艶が増すので経年変化も楽しめます。

ロングライフなもの

婚礼家具として、約40年前に「家具の山佐」(現「オンラインワン」)で購入した食器棚。今もお現役で、大切に使われています。



ロングライフなもの

ご夫婦の結婚式の引出物であるSEIKOの置き時計は、壊れることなく時を刻み続けています。ミッドセンチュリーを彷彿とさせるシンプルな佇まい。